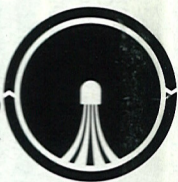


特集号

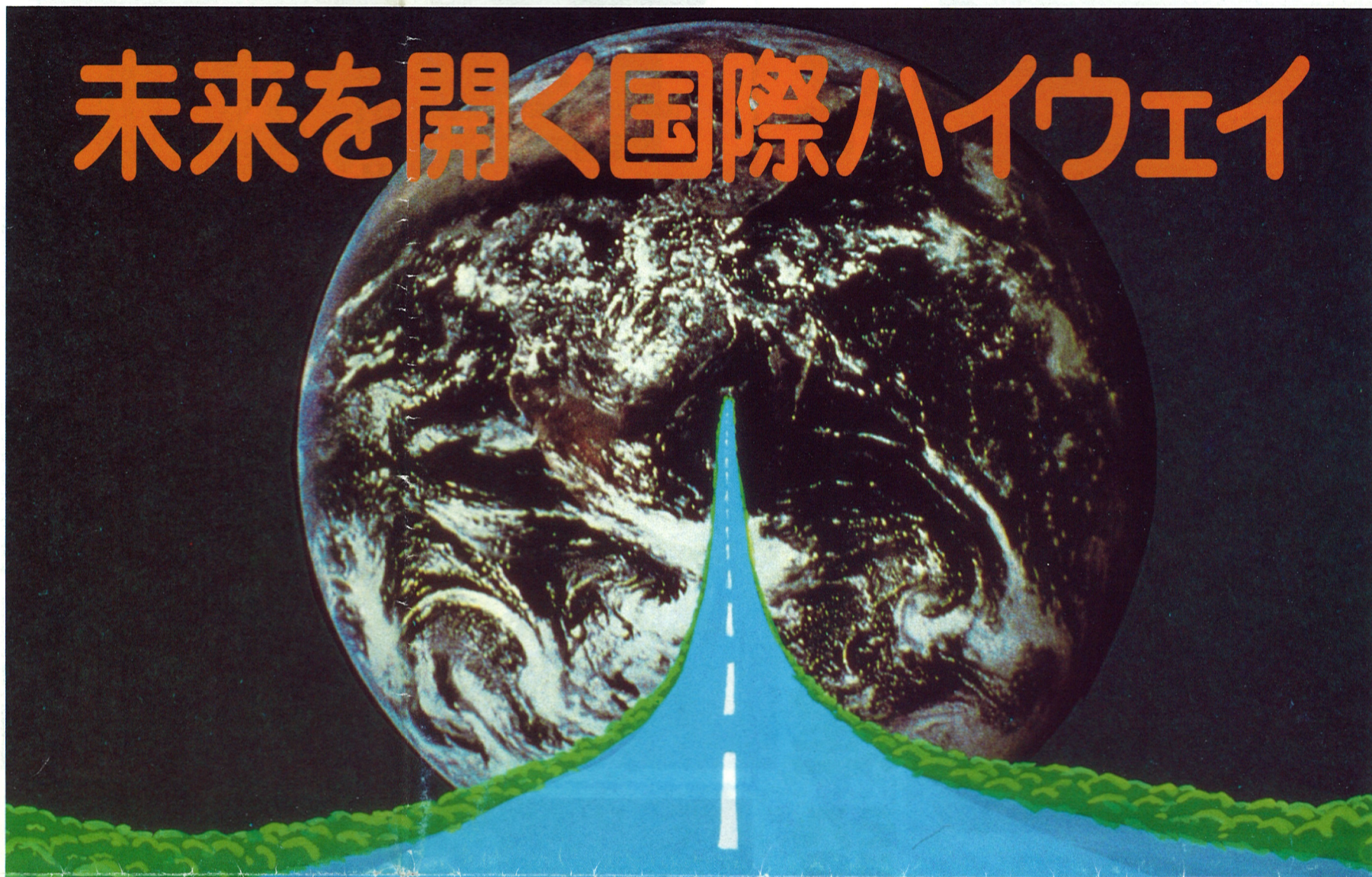
ほんきょうろ
本郷とは人類の本当の故郷(地上天国)
という意味です。従って、本郷路とは
地上天国実現のための道路です。
(題字は文鮮明師)



本郷路

昭和61年(1986年)2月1日発行
発行所 国際ハイウェイ建設事業団
東京都渋谷区道玄坂2-10-12
新大宗ビル3号館4F TEL 03(496)2893
THE INTERNATIONAL HIGHWAY
CONSTRUCTION CORPORATION

未来を開く国際ハイウェイ



CLIP TAPE
4-60N

KOKUYO

理想的な未来社会建設のため、国境を越えて全世界をハイウェイで一直線につなぐ「国際ハイウェイ建設」がスタートして五年目を迎えた。

日本ではこの間、国際ハイウェイ建設事業団が発足し、日韓トンネル研究会も設立され、同構想の一次案である東アジアハイウェイ構想の中で、最も困難とされる日韓トンネル計画が具体的に進められてきた。これは、九州の唐津から岩波、対馬を通り、巨済島を経て韓半島に至る、総延長二百キロを越す長大海底トンネル計画である。

日韓トンネル実現へ 急ピッチで進む調査

トンネル建設の拠点となる唐津・岩波・対馬・大村には、八二年八月から、事業団の現場事務所が設置され、陸・海・空からの調査活動が、ルート全域にわたって活発に続けられている。陸上部ではこれまで、地表踏査や重力探査などの各種調査と測量が行われ、八二年十月からは、深さ五〇〇メートルを越すボーリング工事も実施された。現在まで加部島、岩波、対馬において、合計十三本のボーリングが行われており、陸上部の詳しい地質構造が明らかになってきている。また海域部でも、三隻の調査船が購入され、八二年十月から、対馬海峡全域にわたって音波探査が繰り返された。これまで総距離一万五千メートルに及ぶ調査活動が実施されておき、未知であった海底下の地層が徐々に解明されてきた。

ル建設の準備が行われた。唐津の斜坑予定地では、試験坑建設へ向けて造成工事が続けられ、既に工用道路やスリ捨て場の整備も終え、八六年以降の本格的な建設工事待たないに達している。また対馬でも、立坑候補地の造成工事が続けられた。更に八五年三月から、対馬に四力所、微小地震計を設置して連続観測を行っており、対馬海峡全域の地震解明にも大きく貢献している。

現場での調査活動が活発に続けられる一方、日韓トンネル研究会は、これまでの調査結果をもとにトンネルの比較検討を設定し、具体的な設計作業を進めている。研究会では、学者・技術者がそれぞれ四つの専門部会に分かれて、多岐にわたる研究活動を行っているが、その研究結果は毎年開かれる総会で発表されている。八五年は、東京を福岡で研究会第三回総会を開く一方、欧州・米国・東南アジアの国際会議で、日韓トンネル計画の発表を行い、各方面から大きな注目を集めた。更に十二月には、韓国・ソウルで、日本と韓国の有識者懇談会を開き、日韓トンネル計画について意見が交換された。

文鮮明師のハイウェイ提唱から四年が経過し、国際ハイウェイ構想の一環である日韓トンネル計画も、調査から設計段階にはいった。現在では、国内だけでなく海外からも大きな注目を集めており、建設へ向けて一歩前進したといえる。

あいさつ

一九八一年十二月十日、ソウル特別市で開催された第十回科学の統一に関する国際会議(IOUS)において、この会議を主催してこられた国際文化財団創設者、文鮮明師によって、国際ハイウェイの



建設が提唱され、満場一致で決議されました。国際ハイウェイ・プロジェクトは、反日競争一辺倒の勝手な国家の追求をやめさせると同時に、人類愛という高い次元からグローバルな新しい価値観を確立し、全世界の

自由と平和と幸福の道

国際ハイウェイ建設事業団理事長
梶栗 玄太郎

福を共に享受できる、人類一家族一兄弟の世界を築かんとする地上天国案の提唱であり

国々を高速道路で一直線に貫通させ、科学技術を総動員して、豊かな経済基盤の上で、民が等しく、自由と平和と幸福を享受できるように計画です。その一次案が、東京、ソウル、北京を経てユーラシア大陸を横断し、ロンドン、モスクワに至る国際ハイウェイを建設しようという計画です。以上の構想に基づき、一九八二年四月、国際ハイウェイ建設事業団を設立し、一九八三年五月には、学識経験者による日韓トンネル研究会を組織し、研究と具体的な調査に乗り出した次第であります。人類の理想ともいえるべき国際ハイウェイの建設には、今後、数々の困難や試練が待ち構えていることと承知しています。しかし、私達は、それ乗り越えることができると確信しています。つきましては、皆様方のご理解と協力を賜わり、官民一致してこのような超国家的プロジェクトを推進して参りたいと思っております。何卒宜しくお願い申し上げます。

未来をつなぐ国際ハイウェイ・プロジェクト



国際文化財団創設者 文鮮明師
私は、一つの提案をしたいと思ひます。それは中国から韓国を通り日本に至る「アジア大ハイウェイ」を建設し、ゆくゆくは、全世界に通じる「自由圏大ハイウェイ」を建設することです。これは中国大陸から韓半島を縦断し、トンネルあるいは鉄橋で日本列島に連結して日本を縦断する一大国際ハイウェイで、ここでは自由が保障されるのです。もしこれが建設されるなら、アジア諸国はハイウェイで連結され、一体化されることが出来ます。そうなれば、経済や文化の交流が頻繁となり、アジア共同体が形成されるのです。

(第10回科学の統一に関する国際会議での開会挨拶より)

- 〔ご案内〕
- ビデオ ●「本郷路」国際ハイウェイ(10~15分、日、英語)
- パンフレット ●「国際ハイウェイ・プロジェクト」(B5判、日、英語) ●「国際ハイウェイ基本構想」(A4判変型)
- 新聞 ●「本郷路」月刊(タブロイド判4頁)

●お申し込みお問い合わせ ☎03-496-2893

国際ハイウェイ建設事業団
〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-12 新大宗ビル3号館4階 ☎03(496)2893

会員募集

- 正会員 年額 1口 5,000円
- 賛助会員 年額 個人 1口 10,000円以上 年額 法人 1口 50,000円以上
- お申し込み先 ☎03-496-9211

国際ハイウェイ・プロジェクト
日韓トンネル研究会

イウェイ構想



平和への道建設へ



国際文化財団創設者
文鮮明師

ついに新しい国際的経済秩序を確立する必要があります。その結果、私たちは、莫大な経済的浪費と資源の損失を避けることができるでしょう。そしてすべての人類が、平和と幸福を享受する権利を得るため、世界と人類という視点から、新しい土地利用計画を推進することができます。こうした土台の上に理想世界が確立され、恒久的な平和が実現されるべきです。

緩衝地帯を設け、国境を超越した地域とします。そして、高速乗用車や観光バスを利用する人々のための、宿泊や娯楽施設を建設します。

この提案は、未来の理想世界を実現するための、具体的な計画の一部であります。世界の人々を二つに結ぶ高速輸送のネットワークをつくり、世界の至る所に一日以内で往復できるようにすれば、それだけ地上天国の実現は早いといえるでしょう。

世界の経済が統合されるにつれ、広範な経済発展が可能となり、人々はみな豊かな生活を営み、大部分の時間をレジャーに費やすようになるでしょう。

世界を旅行しながら、自然を愛し、自然から学び、自然の美について神に感謝し、他国の人々のために生きあひに愛し合うときが過ぎるようになるでしょう。

私はすべての人々が真の生活を営む理想世界が、必ず来るということを確信しています。

理想世界の実現を

国際ハイウェイは、人類の理想を達成する一つの手段であります。今日、すべての人類は、飢餓、疾病、戦争からの解放を切望し、平和と幸福に満ちあふれた理想世界を願っています。

人類が抱いているこのような願望を、表現不可能な夢で終わらせるのではなく、到底達成できない。

私たち二人一人は、国籍を超えた統一世界を生きたいという強い願望を抱いています。このような願望から理想世界を

は、神の抱いている願望でもあり、真の理想でもあります。試練と苦痛に満ちた二十世紀も終りに近づき、二十世紀を迎えようとしています。二十一世紀に新しい文明社会を創造するためには、各国が国益を追求することをやめ、グローバルな価値観を確立しなければなりません。

勝手な利益の追求は、敵意と闘争をもたらすだけです。隣国の幸福と平和なくして、自国の幸福と平和は維持できません。世界平和は、国種の違いを超越した全人類に対する愛という観点からのみ考えることができるとはなりません。

今や社会、経済、組織に関する新しい学術理論を提案してゆくことが必要な時代と思われれます。そして、それに基づくとともに、人々は幸福で豊かな生活を送るべきです。

人類一族という理想を実現する方向で、東洋と西洋の諸国を連結するのが、国際ハイウェイの構想です。

一つの計画は、第一段階で日本・韓国・中国を連結し、中国本土、南アジア、中近東を通過して、ソ連に至るというものです。このハイウェイは、世界のすべての国々を直

国際ハイウェイの提唱

八一年十一月、韓国ソウルで開催された第十回世界科学者会議(ICUS)の席上で、同会議の提唱者である文鮮明師は、現在、世界が抱える諸問題を解決する手段として国際ハイウェイ建設を提唱。七百名を越す科学者によって満場一致で承認された。



国際ハイウェイ提唱
八一年十一月、韓国ソウルで開催された第十回世界科学者会議(ICUS)の席上で、同会議の提唱者である文鮮明師は、現在、世界が抱える諸問題を解決する手段として国際ハイウェイ建設を提唱。七百名を越す科学者によって満場一致で承認された。



日韓トンネル研究会設立
八三年五月には、日韓トンネル研究会が設立。同年七月には、同研究会九州支部も結成され多くの学者・技術者によって、日韓ルートに具体的な研究活動が開始された。

国際ハイウェイプロジェクト 活動報告

一九八一年

- 十一・十 文鮮明師、国際ハイウェイ構想を提唱(第十回「科学の統一」に関する国際会議、韓国・ソウル)
- 十二・十 インターナショナルハイウェイ・日本建設準備委員会設置(委員長 梶栗玄太郎)

一九八二年

- 二・八 日韓トンネル研究プロジェクト・総括委員会発足(委員長 松下正寿)
- 四・一 国際ハイウェイ建設事業団発足(理事長 梶栗玄太郎)
- 六・二十 日韓トンネル既存地形地質資料の収集(七月三十一日)
- 六・三十 日韓トンネル陸上部・第一次地質調査(北九州、香取、対馬南部)
- 八・一 書津事務所開設(佐賀県書津市)
- 八・八 日韓トンネル基本構想案の作成(八月三十一日)
- 九・一 陸上部深層ボーリングの開始(八月三十一日、佐賀県呼子町、五〇〇m)
- 十・四 日韓トンネル海城部・第一次音波探査の開始(八月三十一日、呼子町、五〇〇m)
- 十・二十 第二次音波探査の開始(八月三十一日、呼子町、五〇〇m)
- 十・二十 第一次音波探査の開始(八月三十一日、呼子町、五〇〇m)
- 十・二十 カトリスボンド測位システム、精密音響測深機搭載

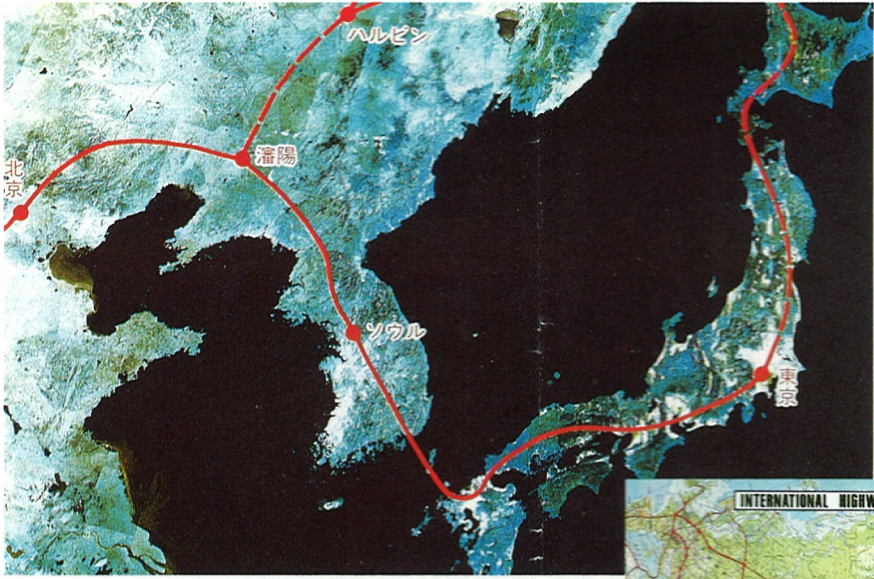
一九八三年

- 二・五 書津事務所設置(佐賀県書津市)
- 三・一 第二定安丸(二〇トン)の購入
- 五・一 対馬事務所設置(長崎県下県郡原町)
- 五・二十四 日韓トンネル研究会(会長 佐々保雄)設立総会(東京・ホテルニューオータニ)
- 六・一 書津事務所設置(長崎県書津郡石田町)
- 七・十六 日韓トンネル研究会九州支部 高田源博 設立総会(福岡・博多全日空ホテル)
- 八・三 日韓トンネル海城部・第二次音波探査の開始(スパークによるシンクロナイズド方式、四五〇〇m)
- 九・八 電気探査及び簡易弾性波探査の開始(佐賀県西町)
- 九・二十二 日韓トンネル陸上部地形図の作成
- 十・十一 日韓トンネル海城部環境調査の開始
- 十・二十 第三定安丸(二六〇トン)の進水(ウォーターガンシステム・二四〇馬力を搭載) ◎テラスシステム株式会社・VAX11・七八〇の導入
- 十・二十四 試験坑坑用材料ボーリングの開始(佐賀県西町、七〇〇m)
- 十一・七 大村事務所設置(長崎県大村市) ◎調査用航空機(セスナ式 TU206型、六人乗り)の導入(長崎空港)
- 十二・五 対馬南部地域の重力探査(六〇〇m)の開始

一九八四年

- 四・一 香取東沖音波探査の開始(スパークによるシンクロナイズド方式、五八〇m)
- 五・一 対馬北西海域音波探査の開始(ウォーターガンによるデジタルマルチチャンネル方式、六七〇m)
- 五・二十四 日韓トンネル研究会第二回総会(東京・日本青年会館)
- 六・一 香取陸上部ボーリングの開始(九月十九日、I-D-OI、住吉神社付近、四〇〇m)
- 七・三十一 日韓トンネル研究会第二回九州支部総会(福岡・博多全日空ホテル)

国境越えるハ



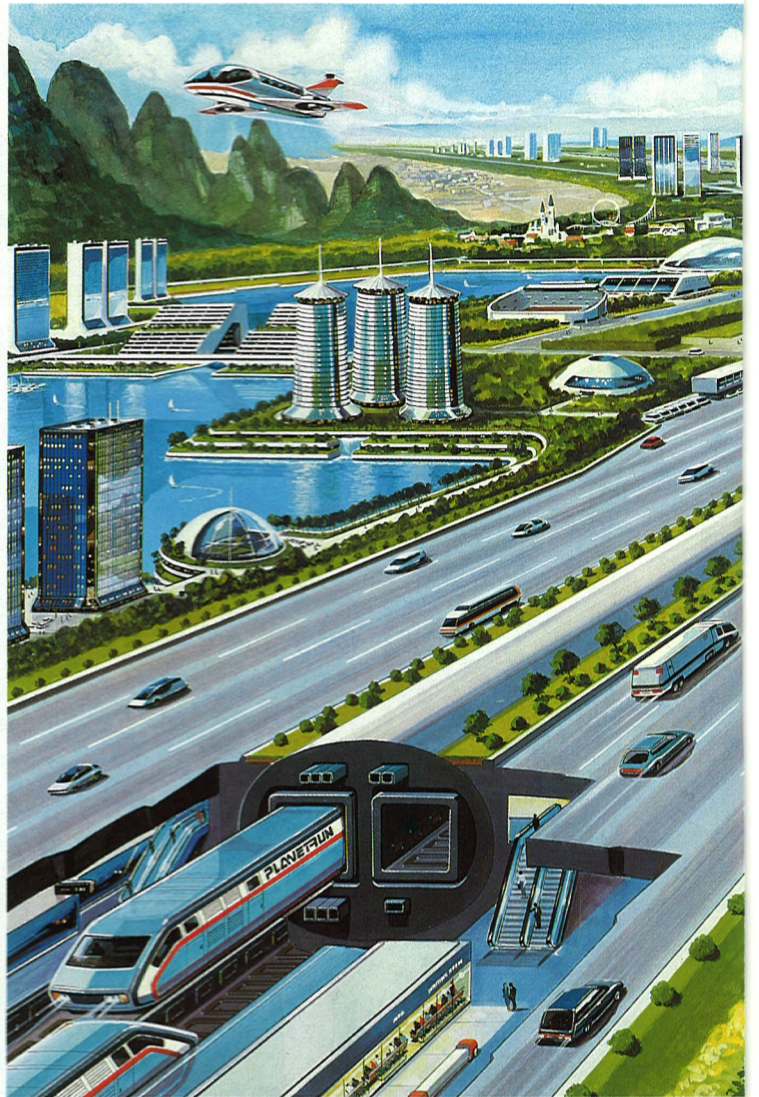
国際ハイウェイルート

東洋と西洋の諸国を連結するのが国際ハイウェイ構想である。第一段階で日本・韓国・中国を連結し、中国本土、南アジア、中近東を通過して欧州に至るルートが計画されている。



国際ハイウェイ構想

国際ハイウェイは、世界のすべての国々を道路で直接連結していく。貨物の積み出しを処理するため、中央分離帯にニューマチック・チューブシステムをつくり、大都市の近郊にはハイウェイに隣接して空港を建設する。出入国の検問所にはビザを必要とせず、ハイウェイの両側少なくとも1キの地帯は、中立の緩衝地帯として、国境を超越した地域とする。そして、高速自動車や観光バスを利用する人々のための宿泊や娯楽施設を建設してゆく。



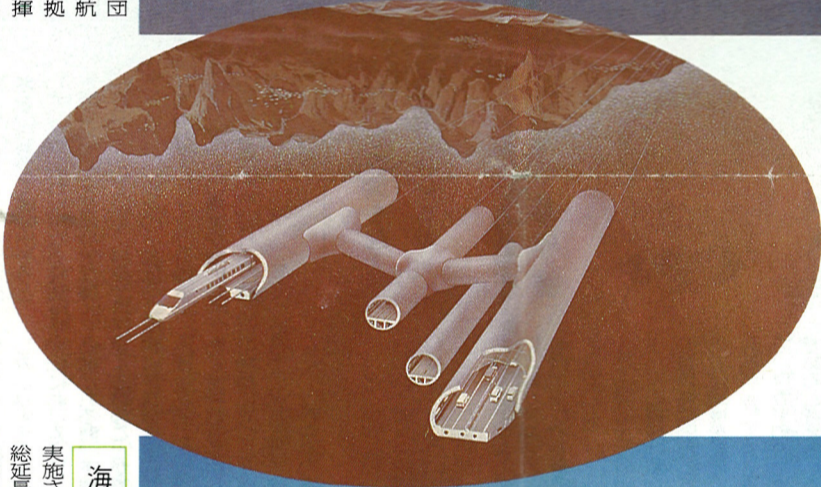
調査機導入

国際ハイウェイ建設事業団は、八三年十一月、調査用航空機(スカイホープ号)を購入。同機は長崎空港を拠点として、人員輸送や航空写真撮影に大きな力を発揮している。



日韓トンネル計画

九州と韓半島を結ぶ日韓トンネルは、総延長二百キロを越す長大トンネルで、その大部分は海底を通ることになる。現在、これまでの調査データをもとに、具体的な設計作業が進められている。



現場事務所設置

九州の唐津、杵岐、対馬、大村には、八三年からそれぞれ現場事務所が設置され、トンネル建設の最前線として調査活動を続けている。写真は唐津事務所。



陸上部ボーリング

唐津・杵岐・対馬では、深さ500mに及ぶ深層ボーリングを実施。これまで計13本のボーリングを完了している。右は、クレーン船でボーリング用資材を搬入しているところ。

海域部音波探査

海域部では、海中で音波を出して海底下の地質を解明する音波探査が実施された。そのため第一、第二定安丸が購入され、探査総延長は、一万五千キロも及んでいる。写真は、ウォーターガンに音波探査を実施中の第三定安丸。



- 七・二七七 対馬陸上部ボーリングの開始(八月十二日、TD-01 厳原町小浦、七〇〇)
 - 八・二〇 杵岐水道探査の開始
 - 九・二 第一回ICUS参加(五日、米国・ワシントン)
 - 九・三 対馬陸上部ボーリングの開始(十月十六日、TD-02 郷崎五〇〇)
 - 九・一五 福岡事務所の設置(福岡市)
 - 十・一 日韓トンネル陸上部・第二次地質調査の開始(対馬北部)
 - 十・三 杵岐陸上部ボーリングの開始(十一月三日、TD-02 芦辺町八幡浦、四〇〇)
 - 十・二四 対馬陸上部ボーリングの開始(十二月二日、TD-03 阿連五〇〇)
 - 十一・一 日韓海底トンネル計画・道路換気計画に関する調査(八五年五月十日)
 - 十一・十 対馬陸上部ボーリングの開始(八五年二月十四日、TD-04 日見川、四〇〇)
 - 十二・二五 沈埋トンネル調査・呼子・杵岐間橋梁計画の開始(八五年五月二十日)
-
- 一・八 杵岐陸上部ボーリングの開始(二月八日、TD-03 長者原、四〇〇)
 - 二・一四 立派・斜坑現場視察(十六日、京都・神戸、和歌山)
 - 二・一五 デジタルマルチチャンネル音波探査の報告会(杵岐・対馬間、対馬西部中)
 - 二・一八 青函トンネル視察(二十日)
 - 三・十 トンネル85・国際シンポジウム参加(十五日、英国鉱山冶金学会主催、英国・ブライト)
 - 三・一四 微小地質計の設置(対馬・厳原町小浦)
 - 三・一六 欧州のトンネル視察(二十三日、ド・パートナー他)
 - 四・一 機関紙『本郷路』第四号発行(以後月刊)
 - 四・二 杵岐陸上部ボーリングの開始(六月十二日、TD-04 石田町簡城、四〇〇)
 - 四・一六 対馬陸上部ボーリングの開始(六月十日、TD-05 豆蔵内院、六〇〇)
 - 四・二四 トンネルと新交通システムに関するシンポジウム参加(二十五日、世界マクロエンジニアリング学会主催、米国MIT)
 - 五・二九 日韓トンネル研究会第二回総会(東京・ホテルニューオータニ)
 - 七・一 国際ハイウェイ・マルチビジョン製作(日本語・英語) ◎杵岐陸上部ボーリングの開始(九月十日、TD-05 石田町久喜船五〇〇)
 - 七・一六 日韓トンネル研究会第三回九州支部総会(福岡・大手門会館)
 - 七・一七 第一回対馬懇親会
 - 七・一八 第一回杵岐懇親会
 - 七・一九 第一回佐賀懇親会
 - 八・七 日韓トンネル海域部ドレッシングの開始(九月二十六日、杵岐水道、七里ヶ巻根)
 - 九・六 日韓トンネル研究会九州支部・杵岐分会設立
 - 十・二九 杵岐陸上部ボーリングの開始(十月十四日、TD-06 射手吉船四三三)
 - 十一・二一 新しい交通輸送に関する国際会議参加(二十日、CIT主催シンガポール)
 - 十一・二八 第十四回ICUS参加(十一月一日、米国・ヒューストン)
 - 十二・四 関越道路トンネル視察
 - 十二・一七 第一回日韓トンネル懇親会(韓国・ソウル)
 - 十二・二二 微小地質計設置(対馬・鹿見、尾崎、鴨居瀬)

一九八六年

一・十二 杵岐陸上部ボーリングの開始(TD-07、勝本町)

ハイウェイ建設へ各界の期待高まる

交通網を拡充して
世界一家を実現へ

元立教大学総長
松下正寿



何となく素晴らしい構想だ。日韓トンネルを第一歩として、アジア、ヨーロッパへと拡がり、更にアメリカをも含んで、世界を一つにしてゆくと。

我々は「世界一家」という言葉を言にする。立派な理想には違いないが交通のともなわぬ「世界一家」は考えられない。世界が「一家」になれるかどうかは「世界

が交通によって一家になれるかどうかにかかっている。然るに現代の技術はそれが可能であることを物語っている。大昔、人間が猿から進化した頃は、人間の出来たことは極わずかであった。人間と猿との差は極めてわずかであった。猿はそのままだ。人間は猿のままだ。人間と猿との差は極めて大きい。何故にこのように大きな差が出来たのだろうか。私は進化論を極端にしているわけではないが、この間には誰も答えていない。これは進化論を超越した問題だからである。私は謙虚に必要がある。そして進化論を振りまわす前に天地万物を創り給った神の前に、平伏して人間のみ、この特殊な進化の能力を授かったことに感謝すべきである。

国際ハイウェイの構想は国際文化財団の創設者である文鮮明師のものである。我々は先ず、この素晴らしい構想に

対して感謝しよう。そしてこの着想を実現するために努力しよう。

ハイウェイ通じて
友愛の輪を広げる

日韓トンネル研究会会長
佐々保雄



国際ハイウェイ構想は、地上に平和と幸福をもたらす基本手段として、世界にハイウェイを張り巡らし、それによって、東西及び南北問題の解決に一つでも近づこうと、一九八一年、第十回科学の統一に関する国際会議の席上

で、文鮮明師によって提唱されたものである。この眼で世界地図を眺めてみると、地上最大の大陸、アジアは、その南緯に沿ってアジアハイウェイがあるのみで、中央に大きな空白がある。将来、そこに築くべきアジア中央ハイウェイの起点を、中央大陸と日本とを結ぶ日韓トンネルは位置づけられる。

今や日本は、従来の自国内位の利益追求から脱却し、その資本力と技術力を、他国との共栄の為に奉仕する時が来ている。この認識の上に立つて、生じた友愛の輪を、延びゆくハイウェイを通じて次第に拡げて行こう。そして諸般に渡る相互補完がアジア一帯に及び、そこに共栄圏が築かれるならば、その牽引力として、牽引者として日本は親愛と尊敬を受けることとなる。

日韓トンネルは、この理念に基づき、国際ハイウェイ建

設の第一歩として、多大な困難をのり越えさせられる。深い山にわけ入って大自然の懐に擁かれる時、下界の俗事を全く忘れられることができる。科学者が真理を追究する時も、土木技術者が自然と闘う時も、全神経を集中して、無私の境地に立つことができる。こうしたことは、国家を超越した、世界共通の事柄であると思う。

現在の世界は火山の国々に分かれ、個人の欲望と国家の利益とが結びついて、果てしない争いが続いている。科学技術の力を結集して、恐ろしい兵器が開発され、刻一刻と地球が滅びる脅威にさらされている。

この時に当たり、国際ハイウェイの構想は差し当たっての具体性は別として、科学技術者が国境を越えて相携え、共同研究しようというもので、世界平和のため結構な話であると考えられる。

賛同者メッセージ

相互理解の精神で
ハイウェイ建設を

元駐大韓民国大使
金山政英



国際ハイウェイ構想は、世界平和実現の手段として、一九八一年十一月十日、ソウル特別市で開催された第十回科学の統一に関する国際会議に於いて、この会議を主宰して来られた文鮮明師が提唱されたものである。会議に参列した世界の著名な学者達は、満場一致でこの文鮮明師の提案に賛成したのであるが、それは世界平和の理想社会実現とい

う高い理念に対する学者としての賛成の意思表示であり、現実の世界情勢がこの理想とは程遠いものであることは、誰しも否定し得ないであろう。文鮮明師のこの提案は宗教家としての師の予言的卓見であると考え、天の摂理は既にその実現のため働いておられるかに見えるのである。争いを脱却するためには互いに協力し調和するための共通の善を見出しなければならぬ。国際ハイウェイ構想は、冷静に考えてみれば特に共産圏にとって経済的後進性から脱却するための絶好の手段である。先ず道を作るのが近代化への必要條件なのである。核兵器競争によって滅ぼされる人類の運命を救い得る代案は、相互理解と協同協力の精神を以て平和のため建設する世界ハイウェイという巨大な土木工事であるという予言は、突飛的なことのようにある

が、人類の運命を救うためには、このような発想の転換が必要である。しかも国際ハイウェイ構想の一環としての日韓トンネルに於いては、戦前から既にその計画があり、技術的に可能であることが証明されているのである。この計画実現に向けての努力が、日本平和外交のシンボルになればならない。

現在、世界では、国々に別れて国境を争い、思想を争っています。人類が争いをやめて一つにならなければならぬ。表現されなければならぬ大きなロマンです。そのため一つのアプローチが国際ハイウェイ構想であります。現在、その一環としての日韓トンネルの調査、研究活動が着々と進められていますが、私はこのプロジェクトが「意

図に、韓半島・九州・琉球列島

外に早く実現する」と思っております。

国際ハイウェイの実現によって、人類全体が幸福になり、子孫が喜ぶようになることを確信するものです。

トンネル建設して
新文化創造に貢献

東京大学名誉教授
木村敏雄



これは今から千五百万年くらい前にできた構造である。百万年ほど前の氷期には、この海峡が陸続きとなり、人類発展以前からの陸上哺乳動物の往來の街道となった。日本が、この海峡を海上を通じて得た文化の恩恵は、はかり知れないものがあった。今人類の発展より前に既にあった街道を、アジア人の文明の力を通じて、日韓トンネルという形で、新たにしようとする大きな計画に心から賛同するものである。それはまた、新たな大きな技術文明を作り出すであろう。またアジア人達の新しい文化を作るための協同に、大きな役割を果たすであろう。

日本列島の形の形があまりにもきれいなために、つい見落されがちであるが、大きい地図で見るとよくわかるように、韓半島・九州・琉球列島

国際ハイウェイプロジェクト

日韓トンネル研究会役員

東京

- 【名誉会長】** 松下 正寿 元立教大学総長
- 【会長】** 佐々 保雄 北海道大学名誉教授
- 【副会長】** 梶原玄太郎 国際ハイウェイ建設事業団理事長
- 金山 政英 元駐大韓民国日本大使
- 瀧山 養 日韓トンネル研究会会長
- 【顧問】** 藤谷 正造 評論家
- 岡田 實 元大阪大学学長
- 尾上 正男 神戸学院大学学長
- 景山 哲夫 近畿大学学長
- 久保木修己 国際文化財団理事長
- 郷司 浩平 日本生産性本部会長
- 高田 源清 九州大学名誉教授
- 那須 聖 外交評論家
- 【顧問】** 西堀栄三郎 日本文学振興会会長
- 山田伴次郎 前京都大学学長
- 【参事】** 池田 肇 河内工務局取締役社長
- 岡本 勇雄 山岸建設代表取締役社長
- 谷口 敏雄 日本工務局最高顧問
- 永野 茂門 富士通常任顧問
- 西川 政一 日商岩井相談役
- 藤岡 清俊 日本発条取締役会長
- 前原 達一 岩崎電気相談役
- 八木 信雄 財団法人文化協会理事長
- 【監事】** 大塚 茂 特定産業信用基金理事
- 本島 信 弁護士
- 【常任理事】** 小山田秀生 国際文化財団副理事長
- 【支部長】** 高田 源清 九州大学名誉教授
- 【副支部長】** 賀来 宗光 長崎県立病院院長
- 兼重 修 熊本大学名誉教授
- 中富 正義 久光製薬会長
- 山崎 達雄 九州大学名誉教授
- 【顧問】** 太田 誠一 衆議院議員
- 三原 朝雄 衆議院議員
- 【参事】** 黒木 一夫 平戸商工会議所会長
- 田口 昭二 西日本建設開発社長
- 田代 信雄 西日本建設開発社長
- 真崎寅二郎 貝島炭礦(株)専任理事
- 溝口 寅彦 西日本短期大学理事
- 宮崎 善吉 佐賀県経済調査協会専任理事
- 【幹事】** 山崎 誠一 富士ビーエスコンクリート(株)社長
- 谷本 三郎 弁護士
- 大橋 三郎 福岡県民教育協議会常任理事
- 【理事】** 相原安津夫 九州大学助教授
- 石堂 稔 九州産業大学教授

九州支部

- 伊東 尚美 日本地研社長
- 大内 和臣 西南学院大学教授
- 表 俊一郎 九州産業大学教授
- 梶山 茂 共立病院院長
- 鎌田 泰彦 長崎大学教授
- 唐木田芳文 西南学院大学教授
- 川上宏二 西南学院大学教授
- 久保為久 長崎大学名誉教授
- 小出 悠一 佐世保漁業組合相談役
- 近藤 満雄 九州産業大学教授
- 坂上 秀男 九州大学名誉教授
- 白水伊久男 熊本大学開港コンサルタント顧問
- 高橋 清 長崎大学教授
- 西田 正 九州大学教授
- 細川 深 福岡大学教授
- 松尾 千秋 弁護士
- 三山 健 自由民主党対馬連絡協議会会長
- 武蔵 正行 九州大学教員
- 光藤 健次 九州大学教員
- 村上 良丸 宮崎大学教授
- 保田 正人 長崎大学学長
- 山内 豊聡 九州大学名誉教授
- 渡辺 尊 佐賀県農業共済組合連合会会長

(一九八六年二月一日現在)